

マグネット・カルチャーの取組に係る検証について

1 趣旨

- 県では、2012（H24）年度から、文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す「マグネット・カルチャー（マグカル）」の取組をスタートさせ、神奈川県発の魅力的なコンテンツの創出と発信、文化芸術人材の育成、そして、情報発信の展開により取組を推進してきた。
- 特に、2019 年度から 2021 年度にかけて「ラグビーワールドカップ 2019™」、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」（以下「東京 2020 大会」という。）といった大規模イベントが県内で実施された際には、こうした機会を捉え、県内の文化芸術の魅力を国内外に発信するため、重点的に事業を実施してきた。
- 2020 年以降は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、多くの事業を中止せざるを得なくなったが、動画配信の活用や補助金等による文化芸術団体への支援など、新しい生活様式のもとで事業継続に取り組んだ。
- このたび、東京 2020 大会等が閉幕し一つの区切りを迎えたことから、これまで本県が取り組んできた「マグカル」の取組の検証を行い、その成果や課題を明らかにすることで、今後の「マグカル」の取組の更なる効果的な事業展開につなげることにしたい。

2 検証の対象年度

2012（H24）年度から 2021（R3）年度

3 検証の対象範囲

2012（H24）年度以降に開始した、文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す取組（事業一覧は、添付参照）

4 マグカル事業の検証

（1）魅力的なコンテンツの創出と発信 ※表内実績値は全実施期間中の合計値

事業概要と主な取組	成果と課題
<p>ア 共生共創事業</p> <p>「共生共創事業」（2018 年度～）は、「ともに生きる社会かながわ」の実現に寄与するため、文化芸術の分野においても、「ともに生きる ともに創る」を目標に、年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まで全ての人に、舞台芸術に参加し楽しんでいただく取組である。本事業では、県内 4</p>	<p>ア 共生共創事業</p> <p>共生共創事業の実施により、年齢や障がいなどに関わらず、多くの方が文化芸術活動に参加することができた。また、参加者及び観覧者ともに、「参加して元気になった」、「日々の生活が充実するようになった」、「命の大切さ、ありがたさを出演者のピュアな心から実感させてもらった。」とい</p>

事業概要と主な取組	成果と課題
<p>地域でシニア企画を年間通じて運営し、公演を行ったほか、障がい者が健常者とともに参加する公演や多文化共生企画等を実施した。これにより、年齢や障がいなどにかかわらず、全ての人が参加し楽しむ舞台芸術を県域で行っていく環境を整備した。</p> <p>(参加者数(2018年度～) : 18,510人、動画再生回数(2020年度～) : 106,411回)</p> <p>イ 発表の場の提供 (マグカル開放区、バーチャル開放区)</p> <p>「マグカル開放区」(2018年度～)は、アーティスト等に、発表の場を提供する取組である。本事業では、毎週日曜に歩行者天国となった県庁前日本大通りを開放し、音楽やダンスを自由に発表できる空間を創出した。</p> <p>コロナ禍においては感染拡大防止のため発表の場をオンライン上に変更して「バーチャル開放区」(2020年度～)を実施した。「バーチャル開放区」では、活動の機会が減少していたアーティストに発表の場を提供するとともに、県民に自宅での鑑賞機会を提供した。</p>	<p>った意見をいただくなど、県の重点施策である「未病の改善」や「共生社会の実現」の推進に寄与することができた。</p> <p>また、コロナ禍では、感染拡大防止のため、シニア劇団の稽古やシニアダンスワークショップで積極的にオンライン稽古を取り入れたり、障がい者等が出演する公演を動画配信で行うなど、事業を止めることなく継続して行った。</p> <p>今後は、文化芸術の活性化とともに、クロス施策として他分野の施策との相乗効果を図っていくとともに、県内の実施地域に偏りが生じているため、令和4年度から新たに開始する「マグカル展開促進補助金」も活用しつつ、全県展開を図っていく必要がある。</p> <p>イ 発表の場の提供 (マグカル開放区、バーチャル開放区)</p> <p>人が通行する道路上に発表空間を創出したことで、人を集め、地域ににぎわいをもたらした。また、知名度がまだ高くないアーティストにとって発表の場は必要不可欠であり、県からアーティストが育つ機会を提供できた。</p> <p>特にコロナ禍においては、その重要性が増し、バーチャル開放区では、多くの応募者を得るなどアーティストのニーズに応えるとともに、コロナ禍においても安全に文化芸術を鑑賞できる機会を創出した。また、オンラインならではの優れた作品の応募につなげることができた。</p>

事業概要と主な取組	成果と課題
<p>【マグカル開放区】(2018～2019 年度) (参加者数：218,096 人)</p> <p>【バーチャル開放区】(2020～2021 年度) (応募数：816 件、再生回数：685,540 回)</p> <p>ウ 伝統文化（カナガワ リ・古典プロジェクト） 「カナガワ リ・古典プロジェクト」(2013 年度～) は、県にゆかりのある伝統文化を新しい発想で活用し、現代を生きる文化芸術として「再生（リ）」し、発信する取組である。本事業では、伝統文化を将来にわたり大切に継承するため、県内各地にゆかりのある伝統文化と現代の映像技術等との組み合わせによる公演や、体験型のコンテンツを実施する等、新しい発想で「再生（リ）」することで、幅広い層に伝統文化の魅力を発信した。(参加者数(2013～2019、2021 年度 ※2020 年度は動画のみ)：9,459 人、動画再生回数(2020～2021 年度)：715,102 回)</p> <p>エ 民間団体の支援（アーティスト・イン・レジデンス、マグカル推進事業補助金） 「アーティスト・イン・レジデンス」(2015～2021 年度 ※2021 年度は中止) は、民間文化芸術団体を支援する取組である。本事業では、国内外から招聘したアーティストと地元住民が、オープンスタジオ等で交流することで、地元住民に文化芸術活動への参加の機会を提供し、地域において文化芸術の普及を図った。 (応募団体数：16 団体、採択団体数：13 団体、参加者数：9,683 人)</p>	<p>今後は、「マグカル開放区」の「リアルの発表の場」、「バーチャル開放区」の「映像だからこそ表現できる作品の発表の場」という両者のよいところを生かしながら実施していく必要がある。</p> <p>ウ 伝統文化（カナガワ リ・古典プロジェクト） これまで伝統文化と触れ合う機会が少なかった人に、身近に感じて興味を持ってもらうための取組であり、2021 年度のアンケート結果では、回答者（144 名）の半数以上（53.3%）が、「伝統文化の持つ魅力・価値について大変興味を持った」と回答するなど、一定の効果を得ている。 また、コロナ禍では、公演や文化財をオンラインで体感する体験映像を動画配信することで、事業を止めることなく、継続して行った。 今後も引き続き、伝統文化を継承していくため、その魅力を効果的に発信する方法を取り入れて実施していく必要がある。</p> <p>エ 民間団体の支援（アーティスト・イン・レジデンス、マグカル推進事業補助金） 「アーティスト・イン・レジデンス」は、国内外のアーティストとの交流により、県内アーティストの質を向上させるとともに、県外からの新たな視点により県の魅力を発信する文化芸術コンテンツを創出した。一方、応募団体が固定化する傾向が見られ、コロナ禍で海外からのアーティストの招聘が困難となったこともあり、2021 年度は事業を中止した。2022 年度に向けて実施方法を検討し、他の応募事業と競わせて質の向</p>

事業概要と主な取組	成果と課題
<p>「マグカル推進事業補助金」(2018～2021年度)では、東京2020大会を契機とした、レガシー性、発信性の高い文化芸術事業を支援することで、県内で様々なジャンルの優れた公演等が開催された。</p> <p>(応募数：157件、採択件数：33件、参加者数：71,652人)</p> <p>オ ナイトタイムエコノミー（マグカルナイト、浮世絵カフェ）</p> <p>「マグカルナイト」(2017～2020年度 ※2020年度は中止)、及び「浮世絵カフェ」(2019～2020年度 ※2020年度は中止)は、飲食しながら文化芸術コンテンツを楽しむナイトタイムエコノミー事業である。本事業は、単発ではない定期的なコンテンツの提供によるマグカルの拠点づくり、及びラグビーワールドカップ2019™や東京2020大会の訪日外国人観光客等への県の文化芸術の魅力発信を目的として実施した。</p>	<p>上を図ること及び事務の効率化を目的として、令和4年度から新たに開始する「マグカル展開促進補助金」に統合した。</p> <p>また、「マグカル推進事業補助金」では、横浜赤レンガ倉庫での野外クラシック音楽フェスティバルといった大規模な事業や、ろう者と健常者がともに創作する人形劇といった共生社会の実現に資する公演等、東京2020大会のレガシーとなる事業を支援した。</p> <p>マグカル推進事業補助金は、当初の予定どおり、東京2020大会の閉幕とともに事業終了となったが、今後も、コロナ禍において文化芸術活動の継続が困難になっている団体の支援や、民間の優れた文化芸術コンテンツ、県重点施策の一層の推進のため、令和4年度から新たに開始する「マグカル展開促進補助金」による支援の継続が必要である。</p> <p>オ ナイトタイムエコノミー（マグカルナイト、浮世絵カフェ）</p> <p>「マグカルナイト」は、ジャンル・コンテンツごとに集客に差はあったものの、飲食をしながら気軽に文化芸術を楽しむという新たなエンターテインメントの場を提供できた。アンケートでは、約9割が「大変よかった」もしくは「よかった」と回答するなど、満足度は高かったが、コロナ禍において飲食を伴う形態や、3密の回避に課題があったこと等により、2020年度に事業を中止・廃止した。</p>

事業概要と主な取組	成果と課題
<p>マグカルナイトは、毎週水曜の開催のほかに、ラグビーワールドカップ 2019™ 期間中に「Special WEEK!」として5日間毎日開催する期間を設けた。また、浮世絵カフェは、ラグビーワールドカップ 2019™ に向け、ナイトタイムエコノミーを活性化するため、週5日、夜の時間帯に2回の公演を継続して実施するなど、ターゲットを明確にして取り組んだ。</p> <p>【マグカルナイト】(参加者数：3,428人) 【浮世絵カフェ】(参加者数：1,601人)</p> <p>カ 世界文化交流（世界発信）プロジェクト</p> <p>「世界文化交流（世界発信）プロジェクト」(2016～2020年度 ※2020年度は中止)は、ラグビーワールドカップ 2019™ や東京2020大会に向けて、国際文化への興味関心を醸成する取組である。本事業では、県と交流が深いベトナムのほか、フィンランドの振付家による韓国国立舞踊団のダンス作品といったノンバーバルの舞台芸術等を招聘し、誰もが海外の舞台芸術を鑑賞できる機会を創出した。</p> <p>(参加者数：10,746人)</p>	<p>「浮世絵カフェ」は、訪日外国人をメインターゲットに、外国人に人気の高い浮世絵を先進的な映像技術で見せるという新たな切り口で魅力発信を図る事業であり、ターゲットに合わせてホテル等を対象に広報を展開した。当初から事業立ち上げ支援を目的とした2年間の時限事業であったが、2年度目は、コロナ禍により事業を中止・廃止した。</p> <p>カ 世界文化交流（世界発信）プロジェクト</p> <p>東京2020大会に向け、ベトナムやフィンランド・韓国の優れた公演を招聘し、多くの参加者を得て国際文化交流の機運を醸成した。東京2020大会終了後に事業終了の予定であったが、コロナ禍により、海外から文化芸術人材や団体を招聘することが困難となったため、2020年度に中止・廃止とした。</p>

総合評価

- 共生社会の実現や国際文化交流、観光コンテンツづくり、伝統文化と現代技術の融合といった多様な切り口から、文化芸術における新たなコンテンツ創出と魅力発信を行った。
- 県が自ら実施するだけでなく、民間団体が行う、優れた文化芸術コンテンツを掘り起こし、活動の支援を行うことで、県内の文化芸術活動の充実が図られた。
- コロナ禍を契機に、オンラインを活用したコンテンツ制作・発信を進めるなど、新たな発表形態を創出することで、発表機会及び鑑賞機会が確保されたとともに、質の高い優れた映像作品の発表の場を提供することができた。

今後の取組方針

- 未病改善や共生社会の実現といった県の重点施策の推進に寄与する「共生共創事業」や、コロナ禍の影響を大きく受け、継承の課題が一層深刻となった伝統文化の振興については、引き続き、県による主体的な取組を進めていく必要がある。
- コロナ禍の影響により、文化芸術活動が困難になっている文化芸術団体やアーティストによる主体的な活動を促進するため、補助金や発表の場の提供による支援を継続させていく必要がある。

(2) 文化芸術人材の育成

事業概要と主な取組	成果と課題
<p>ア マグカルシアター、青少年のための芝居塾</p> <p>「マグカルシアター」(2013年度～)は、文化芸術団体に、ジャンルを問わず、会場費等無償で、公演機会を提供する取組である。主たる会場であるスタジオ HIKARI は、2018年度にブラックボックス化(床や壁を黒色に統一し、舞台公演向けに改修)し、また、2020年度にはかながわアートホールを拠点として追加した。</p> <p>本事業では、幅広いジャンルの舞台芸術人材の育成を行った。</p> <p>また、一般から公募した青少年と、県内の演劇団体が共に演劇舞台を創作し成果公演を行う「青少年のための芝居塾」(2013年度～ ※2020年度は中止)を実施すること</p>	<p>ア マグカルシアター、青少年のための芝居塾</p> <p>「マグカルシアター」は、ブラックボックス化や会場追加等の環境整備を行ったほか、2014年度以降、毎年度130回を超える公演が実施され(コロナで多くの公演が中止となった2020年度は除く)、2021年度は153回もの公演が行われるなど、環境整備と多くの公演機会の提供により、人材育成を行った。</p> <p>2021年度からは、マグカルシアターから県内外で活躍できる文化芸術団体を輩出するため、集客や公演内容が優れた団体に対して、公演費用を援助するステップアップ事業や、再演枠を優先的に確保するマグカルシアター版ロングラン公演といった支援</p>

事業概要と主な取組	成果と課題
<p>で、文化芸術を通じて青少年の健全育成を図った。</p> <p>【マグカルシアター】(参加者数:63,678人、公演数:1,177件)</p> <p>【青少年のための芝居塾】(参加者数:6,931人)</p> <p>イ かながわ短編演劇アワード</p> <p>「かながわ短編演劇アワード」(2014年度～)は、1演目30分間(2018年度までは20分間)の上演や公開審査により、次代の人材を発掘する演劇コンペティションである。本事業では、神奈川の演劇人の技術向上や、創作活動の活性化を図り、次世代を担う舞台芸術人材を育成した。</p> <p>当初は、演劇作品のコンペティション(本戦)のみだったが、2017年度からは戯曲部門、2018年度からは県内高校生部門を追加し、優れた戯曲家や青少年育成にも資する事業とした。</p> <p>また、2019年度には、本戦の賞金を従来の30万円から100万円に上げるなど参加団体数の増加に向けた見直しを行ったほか、審査委員に幅広い分野から就任いただくことで、既存の演劇の枠に囚われない団体が参加し、コンテンポラリーダンスの要素を持つ団体がグランプリを受賞する等、多様な舞台芸術の創作や若手の人材を支援することができた。</p>	<p>の強化等、工夫して事業を行っている。</p> <p>今後も、応募団体数を増やすことで、日頃の鍛錬を促すとともに、参加団体の質を高め、県内の優れた文化芸術団体を育成する必要がある。</p> <p>「青少年のための芝居塾」では、400人を超える青少年に対し、舞台出演や裏方といった芝居作りを通して人材育成を行った。現在、舞台芸術では、演技に加え、歌やダンスも不可欠であることから、青少年の芝居塾についても、事業内容を再検討する必要がある。</p> <p>イ かながわ短編演劇アワード</p> <p>高校生部門では、優勝校が本戦に出場できるなど、モチベーションを高め、県内高校生の演劇能力向上に寄与した。</p> <p>また、2019年度の本戦の賞金額の引き上げにより、同年の本戦の応募団体数が、65団体と過去最高の応募数となった。また、本事業の周知に尽力した結果、2021年度は全部門の応募数の合計が、175件と過去最高となった。</p> <p>今後も応募団体数の増加等により、日頃の鍛錬を促すとともにアワードに出場する作品の質を高め、県内の優れた演劇人の育成を行うとともに、県民に上質な演劇を観劇する機会を提供する必要がある。</p>

事業概要と主な取組	成果と課題
<p>(参加団体数(本戦、県内高校生部門):96 団体、応募作品数(戯曲部門):412 件、参加者数:5,267 人)</p> <p>※2019~2021 年度の参加者数は、配信動画の瞬間最高視聴者数も含む</p> <p>ウ かながわミュージカルアワード(かながわ地劇ミュージカル)</p> <p>「かながわミュージカルアワード(かながわ地劇ミュージカル)」(2016 年度~ ※2019 年度は公演中止、2020 年度は無観客ライブ配信、2021 年度は中止)は、県内の伝説・民話等を織り込んだ地域色豊かなミュージカル作品のコンペティションを実施する取組である。本事業では、県内ミュージカル団体の質の向上を図るとともに、神奈川県発の魅力的なコンテンツの担い手となる人材を育成した。</p> <p>(応募団体数:20 団体、参加者数:2,338 人、再生回数(2020 年度):615 回)</p> <p>※2020 年度の参加者数は、配信動画の瞬間最高視聴者数</p> <p>エ マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミー</p> <p>「マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミー」(2014~2021 年度)は、一流の講師陣による、歌、ダンス、演技の実践的なレッスンや、公演出演をとおして専門人材を育成する事業である。本事業では、ミュージカルを中心とした舞台芸術人材を多く育成した。また、アカデミー生は、SDGs の普及動画や、教員研修用動画に出演するなど、県の広報などにも協力した。</p> <p>2021 年に県立神奈川総合高等学校に「舞</p>	<p>ウ かながわミュージカルアワード(かながわ地劇ミュージカル)</p> <p>ミュージカルに特化したアワードを実施することで、ミュージカル団体に発表の場や交流の場を提供した。また、プロの審査員から講評を受ける機会を提供することで、団体の質の向上につながった。</p> <p>一方、アワードの規定の公演時間(45 分間)に合わせた作品作りをすることが団体の負担となっていた。</p> <p>今後、県立神奈川総合高等学校での「舞台芸術科」の新設やマグカル・パフォーミングアーツ・アカデミーの終了などを踏まえ、本県の舞台芸術人材の育成について、改めて検討する必要がある。</p> <p>エ マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミー</p> <p>在籍者の中から、テレビ、映画、CM等に出演する者が出るなど、全国区で活躍できる人材を県から輩出した。</p> <p>また、卒業生には、県事業の広報媒体への出演など、引き続き、県広報の効果的な発信に協力してもらおう仕組みづくりが求められる。</p> <p>今後、「舞台芸術科」の新設や本事業の終了などを受け、本県の舞台芸術人材の育成について、改めて検討する必要がある。</p>

事業概要と主な取組	成果と課題
<p>台芸術科」が新設されたことを受け、2021年度をもって、事業を終了した。</p> <p>(受講者数：274人、テレビドラマ出演者数：16名、映画出演者数：7名)</p> <p>オ 全国高等学校日本大通りストリートダンスバトル</p> <p>「全国高等学校日本大通りストリートダンスバトル」(2015年度～ ※2020、2021年度は中止)は、県庁前日本大通で、全国の高校生が参加可能なストリートダンスのコンテストを実施する取組である。本事業では、ストリートダンスを通じて高校生の健全育成とともに、日本大通りの活性化を図った。</p> <p>(参加団体数：526団体、参加者数：55,100人)</p>	<p>オ 全国高等学校日本大通りストリートダンスバトル</p> <p>参加団体数が年々増え、2019年度は136団体の参加があった。全国から高校生が参加することで、県内高校生のダンスのレベルの向上につながった。また、2017年度以降は、参加者数が15,000人に達し、日本大通りの活性化にもつなげた。</p> <p>今後は、既存の類似事業や全国で行われているダンスコンテストの実施状況を踏まえ、事業の実施について改めて検討する必要がある。</p>

総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 演劇、ミュージカル、ダンスなど舞台芸術の様々な分野における人材の育成を行った。 ○ コンペティション形式や、マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミーの継続的な運営により、人材の質の向上や全国区で活躍する人材の輩出を行った。 ○ マグカルシアターや、コンペティションで勝ち抜いた団体の公演を行うことで、質の高い舞台芸術の鑑賞機会を県民に提供した。

今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後も本県舞台芸術の発展のため、演劇やミュージカル、ダンスなど様々なジャンルの専門人材の育成を継続して行う必要がある。 ○ 現在の舞台芸術に求められる、分野にとらわれない総合的な舞台人材を育成するため、一部の人材育成事業について見直す必要がある。

(3) 情報発信の展開

事業概要と主な取組	成果と課題
<p>ア マグカル・ドット・ネット、イベントカレンダー</p> <p>県内で開催される公演や文化芸術イベントを、ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」(2012年度～)及び広報誌「イベントカレンダー」(2017年度～)といった異なる媒体で一元的に発信することで、幅広い年代層に効果的に広報展開した。</p> <p>なお、インバウンドを見据え、イベントカレンダーは、日英併記で作成した。</p> <p>【マグカル・ドット・ネット】 (サイト閲覧数：2,971,805回)</p> <p>【イベントカレンダー】 (発行部数：2,747,500部)</p>	<p>ア マグカル・ドット・ネット、イベントカレンダー</p> <p>サイトについては、累計で約300万回のページビュー数を得たが、利用者の分析データからは目的のページのみの閲覧に留まる傾向が確認された。</p> <p>今後も引き続き、魅力的なページ作りを行うことで、県内の文化芸術の多様性や魅力を知ってもらう機会を創出し、新たな参加者の増加につなげる必要がある。</p> <p>広報誌については、累計200万部を超える部数を発行し、県内外のホールや文化施設のほか、駅や商業施設など様々な場所で配架し、手に取ってもらえるよう工夫した。</p> <p>今後も、引き続き、県内各地の文化施設との連携により掲載情報を充実させるとともに、適切な配付先、部数を見直していく。また、紙面は掲載できる情報量に限りがあるため、情報量と見やすさが両立するよう、レイアウトを工夫して魅力的な誌面作りやサイトとの連携を行う必要がある。</p>
<p>イ Cultural Programs in Kanagawa (イヤーブック)</p> <p>ラグビーワールドカップ2019™や、東京2020大会に向け、訪日外国人をメインターゲットに県内の文化芸術コンテンツを紹介する広報誌「Cultural Programs in Kanagawa (イヤーブック)」(2018～2021年度 ※2020年度は中止)を作成した。</p> <p>また、空港や各国大使館、ラグビーワールドカップ2019™のファンゾーンや東京2020大会のメディアセンター等で配布を行った。</p>	<p>イ Cultural Programs in Kanagawa (イヤーブック)</p> <p>ラグビーワールドカップ2019™や東京2020大会並びに、東京2020NIPPON フェスティバルとともに、県内各市町村の取組も掲載することで、本県文化芸術の記念誌となった。</p> <p>また、国際大会の機会を捉え、日英併記で作成したほか、海外の人にも手にとってもらいやすい箇所に配架することで、国内外に県の文化芸術の魅力をアピールした。</p>

事業概要と主な取組	成果と課題
<p>なお、東京 2020 大会の閉幕により作成を終了した。 (作成部数：63,000 部)</p>	

総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○ ウェブ上のポータルサイトと広報誌という異なる媒体を用いること、及び広報誌からサイトへの誘導を行うことで、若年層から高齢者層まで、幅広い情報発信を多言語で行うことができた。 ○ ラグビーワールドカップ 2019™や東京 2020 大会など大規模イベントの機会を捉え、県内の代表的な文化芸術コンテンツを発信する記念誌を作成することで、海外や県外の観光客への魅力発信が図られた。

今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後も幅広い層に情報発信し、マグカルを取組を展開・発展させるため、県内各地の取組とも幅広く連携し、ポータルサイトと広報誌の両媒体での広報を継続させていく必要がある。

(4) 文化オリンピックアード

事業概要と主な取組	成果と課題
<p>ア 文化プログラム認証制度</p> <p>東京 2020 大会に向け、官民が一体となって県全体で文化芸術を盛り上げるため、県内で行われている様々な舞台公演や美術展などの文化イベント等について、申請に基づき「神奈川の文化プログラム」として認証し、統一したマークを使用して一体的に情報発信を行う取組を行った。</p> <p>(認証件数 (2017 年度～) : 1,732 件)</p> <p>イ 日本大通り流鏝馬騎射式、浮世絵アートウィーク 2019、神奈川伝統・映像アートウォーク 2019、東京 2020 NIPPON フェスティバル、「静、愛と死～能とオペラの融合による創作舞台」</p> <p>ラグビーワールドカップ 2019™ から、東京 2020 大会の期間にかけて、県の文化芸術の魅力を発信する様々な取組を実施した。</p> <p>2019 年度に実施した流鏝馬は、主要公道である日本大通りに特設馬場を設置して開催するなど、全国でもまれに見る方法で実施した。</p> <p>(参加者数 (2019 年度) : 4,000 人)</p> <p>また、浮世絵アートウィーク 2019、神奈川伝統・映像アートウォーク 2019 では、浮世絵を始め、県内の伝統工芸品等を鑑賞できる空間を創出し、県内の伝統文化をはじめとした文化芸術の魅力を発信した。</p> <p>(参加者数 (2019 年度) : 15,740 人)</p> <p>東京 2020 大会開催期間中に開催した「東京 2020 NIPPON フェスティバル」では、主</p>	<p>ア 文化プログラム認証制度</p> <p>東京 2020 大会に向けた文化プログラムの認証事業は累計で 1,700 件を超える文化イベントを認証した。</p> <p>これにより、県全体で一体感を持たせ、東京 2020 大会に向けた機運醸成を図るとともに、県の文化芸術の魅力を発信することができた。</p> <p>今後は、この登録制度を生かして、市町村、文化芸術団体等と連携し、より多くの県民が文化芸術活動に参加するよう働きかけていく必要がある。</p> <p>イ 日本大通り流鏝馬騎射式、浮世絵アートウィーク 2019、神奈川伝統・映像アートウォーク 2019、東京 2020 NIPPON フェスティバル、「静、愛と死～能とオペラの融合による創作舞台」</p> <p>ラグビーワールドカップ 2019™ 期間中に実施した「流鏝馬」や「アートウィーク・アートウォーク」では他国の駐日大使を始め多くの方に鑑賞いただくことで、県の文化芸術の魅力を国内外に発信した。</p> <p>また、「東京 2020 NIPPON フェスティバル」は、「共生社会の実現に向けて」のテーマにふさわしいプログラムを数多く配信し 2 万回を超える再生回数を得た。</p> <p>さらに、「能とオペラの融合による創作舞台」でも 4 千回を超える再生回数を得た。なお、本公演は、日本を代表する特別な文化プログラムとして全国で 32 件実施された共催プログラムの一つに位置付けられた。</p> <p>これらの取組により、本県の文化芸術の</p>

事業概要と主な取組	成果と課題
<p>催プログラムの「共生社会の実現に向けて」に地方公共団体として唯一参画し、障がい者等が参画するダンスプログラム、音楽公演及び演劇や、文化庁メディア芸術祭と連携したメディアアート展示などを企画した。なお、東京 2020 大会の無観客実施の決定を受け、全ての企画を動画配信に特化した形にして実施した。</p> <p>(動画再生回数 (2021 年度) : 20,781 回)</p> <p>また、「静、愛と死～能とオペラの融合による創作舞台」は、日本の伝統文化である「能」と西洋の伝統文化である「オペラ」を組み合わせることにより、それぞれの魅力を再発掘し、発信する取組として企画し、主催プログラム同様、動画配信として実施した。</p> <p>(動画再生回数 (2021 年度) : 4,669 回)</p>	<p>魅力を国内外に発信するとともに、インバウンドに向けた大規模文化プログラムを実施するためのノウハウの蓄積や、「共生社会の実現」及び「伝統文化の継承」の機運醸成を図ることができた。</p> <p>今後は、こうした成果とともに、東京 2020 NIPPON フェスティバルのテーマであった「共生社会の実現に向けて」について、「共生共創事業」などにより確実に継承していく必要がある。</p>

総合評価
<p>○ 2019 年から 2021 年度に県内で実施された東京 2020 大会等の機会を捉え、東京 2020NIPPON フェスティバル等の大規模文化プログラムを実施したことにより、国内外に向けて本県の文化芸術の魅力を発信するとともに、「共生社会の実現」や「伝統文化の継承」の機運醸成を図ることができた</p>

今後の取組方針
<p>○ 文化オリンピックの取組の成果を今後の事業に生かしていくため、共生共創事業や、カナガワ リ・古典プロジェクトといった事業に継承し、レガシーとして着実に推進していく必要がある。</p>

5 マグカル事業全体の総合評価

- マグカル事業では、2012（H24）年度から「魅力的なコンテンツの創出と発信」、「文化芸術人材の育成」、「情報発信の展開」、「文化オリンピックアード」を柱として様々な取組を実施するとともに、全期間の合計として、「参加者：約 48 万人」、「再生回数：約 154 万回」、「ページビュー数：約 297 万回」という結果を得られた。
- これらの結果から、マグカル事業の目的である「文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す」について一定の成果を出したと評価できる。

6 課題と新たな取組

- マグカル事業では、一定の成果を出した一方で、これまでの実施内容や新たな社会情勢において、課題も生まれてきており、新たな取組が求められている。

【東京 2020 大会のレガシー「共生」の継承】

- マグカルでは、主に「共生共創事業」により「共生社会の実現」を図ってきたが、実施地域に偏りがあるという課題がある。
- 今後、東京 2020 大会のレガシーを確実に継承し「共生社会の実現」を図るため、県内でバランスよく事業を実施していく必要があり、「共生共創事業」に加え、2022 年度から開始する新規事業「県営団地におけるシニア合唱事業」の実施等により、本格的に全県展開を図ることとしている。

【ウィズ・アフターコロナにおけるマグカル事業の推進】

- 文化芸術は、心ゆたかな県民生活には欠かせないものであるが、コロナ禍における文化芸術活動への打撃は大変大きいものであり、県内の文化芸術活動の灯を絶やさないためにも、文化芸術団体への支援や文化芸術を楽しむ人の裾野拡大に向けた取組は、必要不可欠となっている。
- 今後、県内の文化芸術活動を守り発展させていくため、補助金や 2022 年度から開始する新規事業「かながわ県民文化祭」の実施等により、活動への直接的な支援や裾野拡大に向けた取組を実施していく必要がある。

【人材育成事業の見直し】

- マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミー事業は、全国区で活躍する人材を輩出し一定の成果を出したこと、及び県立神奈川総合高等学校での舞台芸術科の新設等により、2021 年度をもって終了した。
- 一方、現在、舞台芸術においては、特定の分野に偏らず、演技・歌・ダンスなどを総合的に習得した人材が求められているという状況がある。
- 現在、県ではこれを満たす育成事業は行っていないため、時代に合わせた総合的な人材育成プログラムを形成するとともに、舞台芸術に興味がある青少年を幅広く受け入れ、舞台芸術に携わるきっかけを作るとともに、舞台上にとどまらない社会性や、コミュニケーション能力を育む新たな人材育成事業を実施していく必要がある。

7 令和4年度以降の展開

- 上記課題を踏まえ、令和4年度以降は次のとおりマグカル事業を行っていくこととしたい。

方針	実施内容
魅力的なコンテンツの創出と発信	「共生共創事業」の全県展開（R4 拡充）
	「県営団地におけるシニア合唱事業」（R4 新規） ※ 団地住民を対象とした合唱事業を通じて、「共生社会の実現」、「未病改善」、「健康団地」等の実現を図るクロス施策
	「カナガワ リ・古典プロジェクト」
	「マグカル展開促進補助金」（R4 新規） ※ 先駆的事業、高齢者・障がい者・伝統文化に関する事業は、補助率や補助上限額に優遇措置を設定
	「マグカル開放区」、「バーチャル開放区」（R4 拡充）
文化芸術人材の育成	「マグカルシアター」（「青少年のための芝居塾」は今後検討）
	「かながわ短編演劇アワード」
	「かながわミュージカルアワード」（今後検討）
	「全国高等学校日本大通ストリートダンスバトル」（今後検討）
情報発信の展開	「マグカル・ドット・ネット」 ※ SNSやインターネット広告の実施も含む
	「イベントカレンダー」
	「かながわ県民文化祭」（R4 新規） ※ 「文化プログラム認証制度」を継続・活用し、県内で9～12月に開催される文化芸術イベントを一体的に広報し裾野拡大を図る。
	「マグカル・フォーミングアーツアカデミー卒業生登録制度」（R4 新規） ※ アカデミー卒業生を登録し、県の広報媒体等に出演

以上

マグネット・カルチャー事業一覧

No	事業名	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
魅力的なコンテンツの創出と発信											
1	共生共創事業										
2	マグカル開放区、バーチャル開放区										
3	カナガワリ・古典プロジェクト										
4	アーティスト・イン・レジデンス										コロナで中止
5	マグカル推進事業補助金										
6	マグカルナイト									コロナで中止	
7	浮世絵カフェ									コロナで中止	
8	世界文化交流（世界発信）プロジェクト									コロナで中止	
文化芸術人材の育成											
9	マグカルシアター										
10	青少年のための芝居塾									コロナで中止	
11	かながわ短編演劇アワード										
12	かながわ（地劇）ミュージカルアワード								コロナで中止		コロナで中止
13	マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミー										
14	日本大通ストリートダンスバトル									コロナで中止	コロナで中止
情報発信の展開											
15	マグカル・ドット・ネット										
16	イベントカレンダー										
17	イヤールック									コロナで中止	
文化オリンピックアード											
18	文化プログラム認証制度										
19	文化オリンピックアード									コロナで中止	